



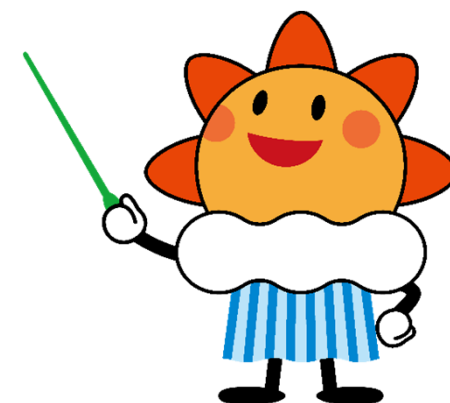
向こう3か月の 天候の見通し

3か月予報（夏：6～8月）



ぼるけん

福岡管区気象台 気象防災部予報課
（令和8年5月19日14時発表）



はれるん

6～8月の予報のポイントと留意点

予報のポイント

- 夏の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、**高い**でしょう。

留意していただきたいこと

- 期間を通して**高温**の予報。
- **暑さ対策**（熱中症対策等、農作物・家畜の管理等）をお願いします。

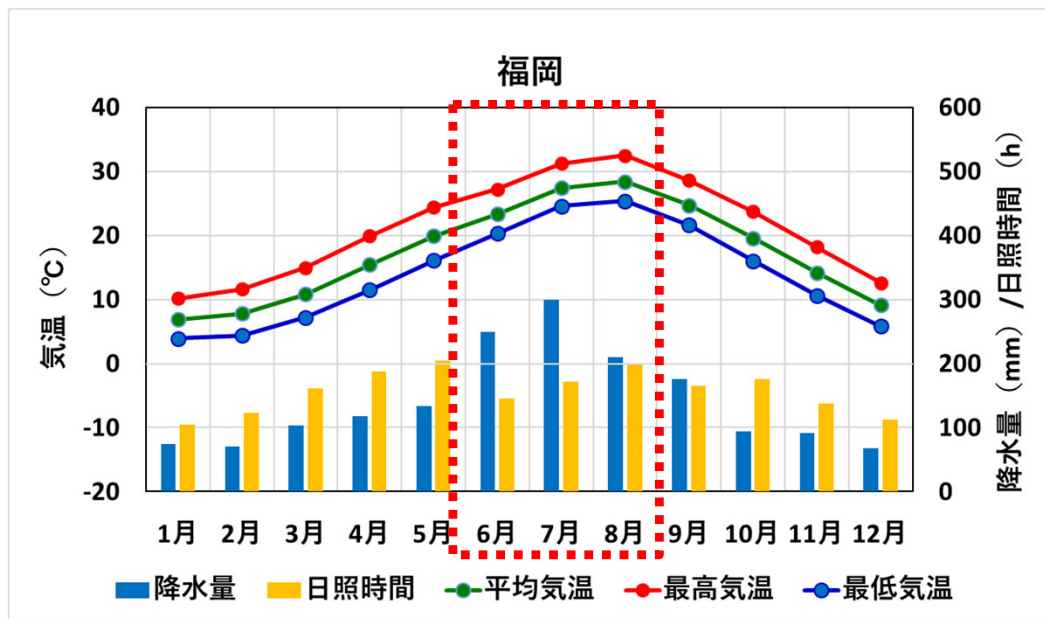
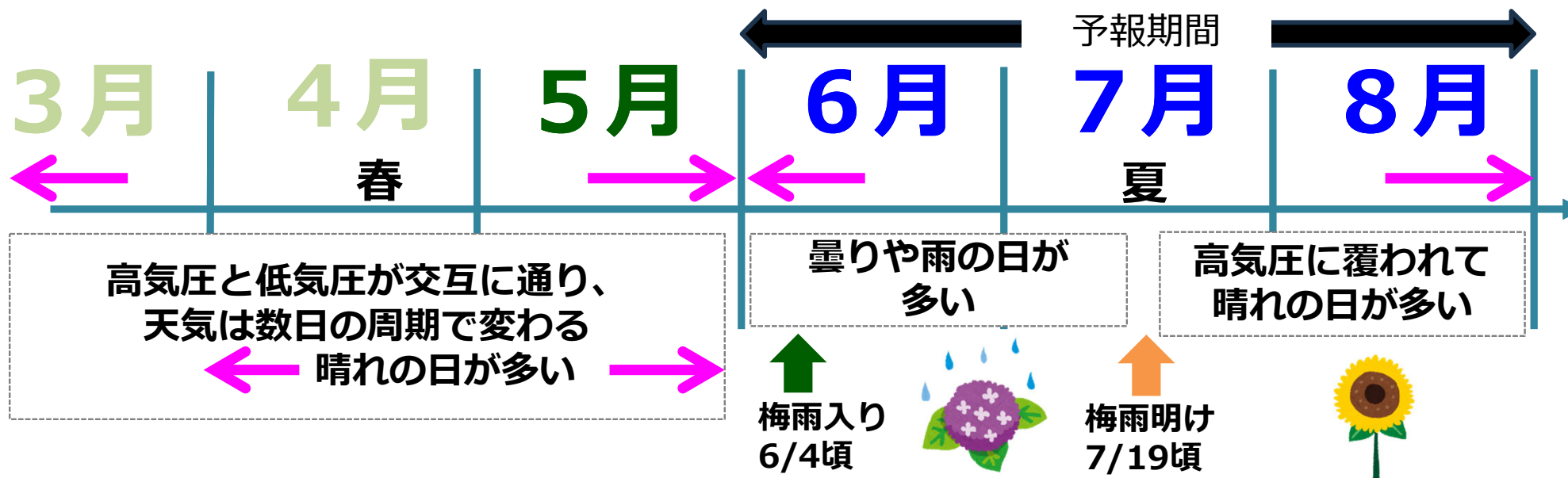
エルニーニョ現象になる
見込みですが気温は高い



- **降水量**は**ほぼ平年並**の予報ですが、**湿った空気が流れ込みやすい時期があり、梅雨前線の活動が活発となる時期がある**見込み。
- **近年は梅雨時期の大雨の発生頻度は増加**しています。最新の気象情報等を活用いただき、**大雨への備え**をお願いします。

※暖候期予報として発表していたこの夏（6～8月）の予報については、今回の3か月予報等最新の予報をご利用ください。

春～夏の九州北部地方の平年の天候経過



気象要素の月ごとの季節変化

夏への季節進行とともに
気温上昇、降水量増加
年降水量の約1/3が
6～7月（梅雨期間）に雨が降る
台風は、平年（6～8月）で約2
個、九州に接近。
台風にも警戒する時期となる。




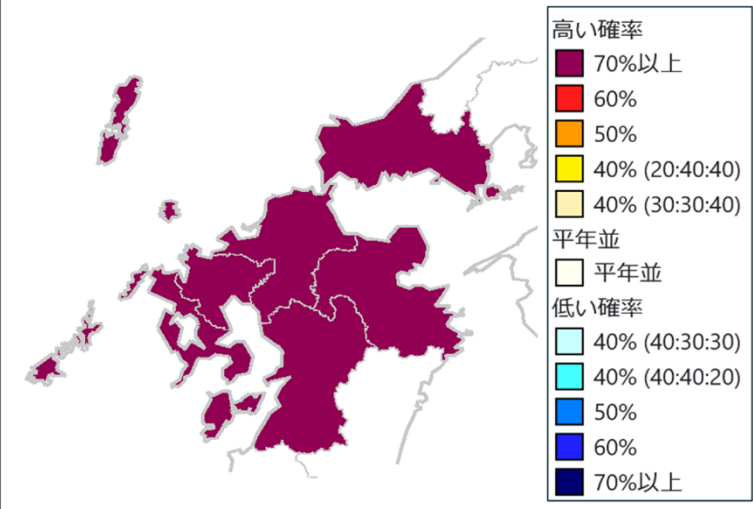
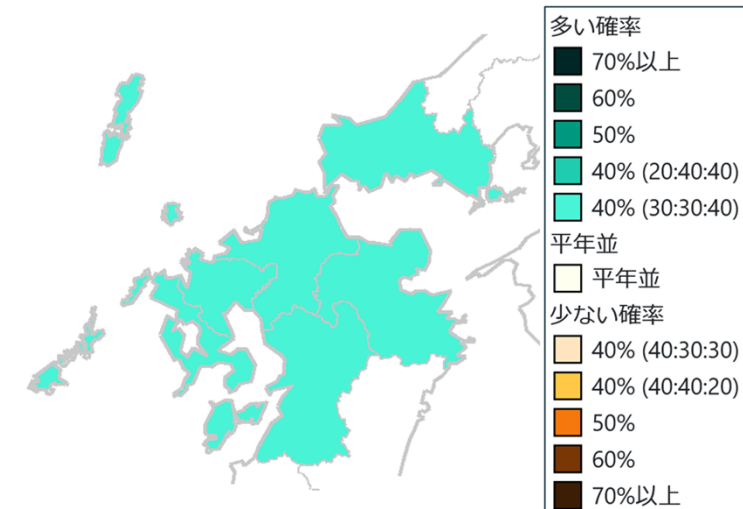
年降水量平年値（福岡） : 1686.9mm
梅雨期間（6～7月）降水量平年値（福岡） : 548.7mm

天候の見通し（6～8月）



歩み続けて150年
防ぐ災害・守る未来

向こう3か月（6～8月）の平均気温・降水量

九州北部地方 (山口県を含む)	 平均気温（3か月） 6～8月	 降水量（3か月） 6～8月
	低 10 並 20 高 70 高い 見込み	少 30 並 30 多 40 ほぼ平年並 の見込み
 数値は予想される 出現確率です	 <ul style="list-style-type: none"> 高い確率 70%以上 60% 50% 40% (20:40:40) 40% (30:30:40) 平年並 □ 平年並 低い確率 40% (40:30:30) 40% (40:40:20) 50% 60% 70%以上 	 <ul style="list-style-type: none"> 多い確率 70%以上 60% 50% 40% (20:40:40) 40% (30:30:40) 平年並 □ 平年並 少ない確率 40% (40:30:30) 40% (40:40:20) 50% 60% 70%以上

2月24日発表の暖候期予報に比べて、暖かい空気に覆われやすい予想となったため、高温の確率を10%増加（10:30:60→10:20:70）しました。

天候の見通し（月別）



歩み続けて150年
防ぐ災害・守る未来

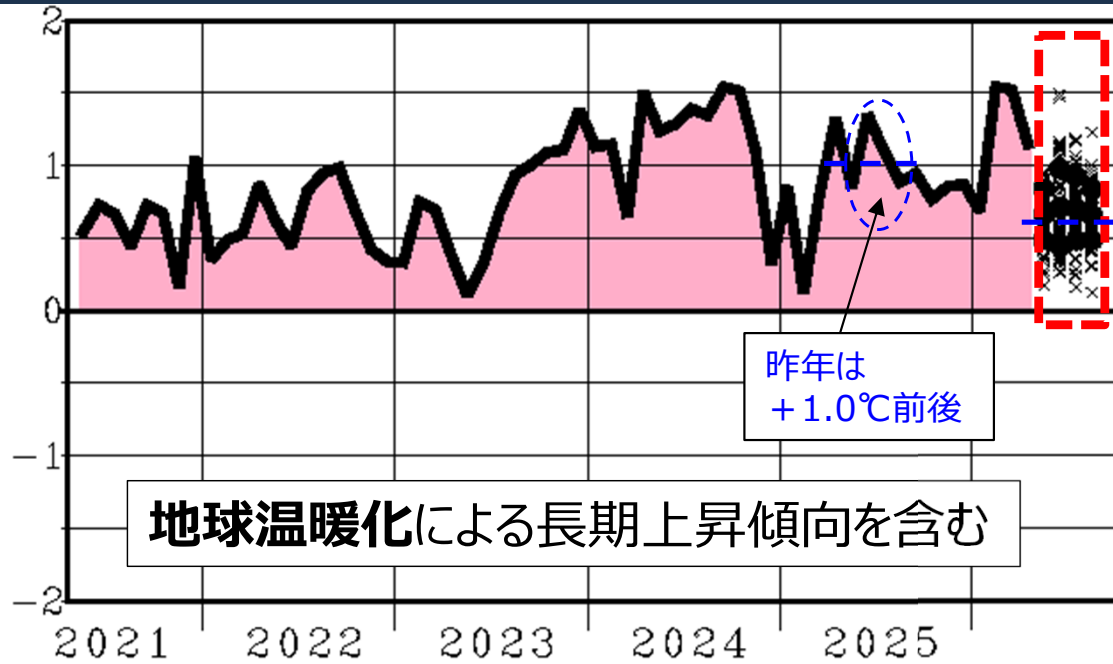
	6月	7月	8月	気温
天候	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	高い確率 ■ 70%以上 ■ 60% ■ 50% ■ 40% (20:40:40) ■ 40% (30:30:40) 平年並 □ 平年並 低い確率 □ 40% (40:30:30) □ 40% (40:40:20) ■ 50% ■ 60% ■ 70%以上 降水量 多い確率 ■ 70%以上 ■ 60% ■ 50% ■ 40% (20:40:40) ■ 40% (30:30:40) 平年並 □ 平年並 少ない確率 □ 40% (40:30:30) □ 40% (40:40:20) ■ 50% ■ 60% ■ 70%以上
気温	低 10 並 30 高 60 高い 見込み	低 10 並 30 高 60 高い 見込み	低 10 並 30 高 60 高い 見込み	
気温				
降水	少 30 並 30 多 40 ほぼ平年並の見込み	少 30 並 40 多 30 ほぼ平年並の見込み	少 30 並 40 多 30 ほぼ平年並の見込み	
降水量				
降水量				

大気全体の温度の予測

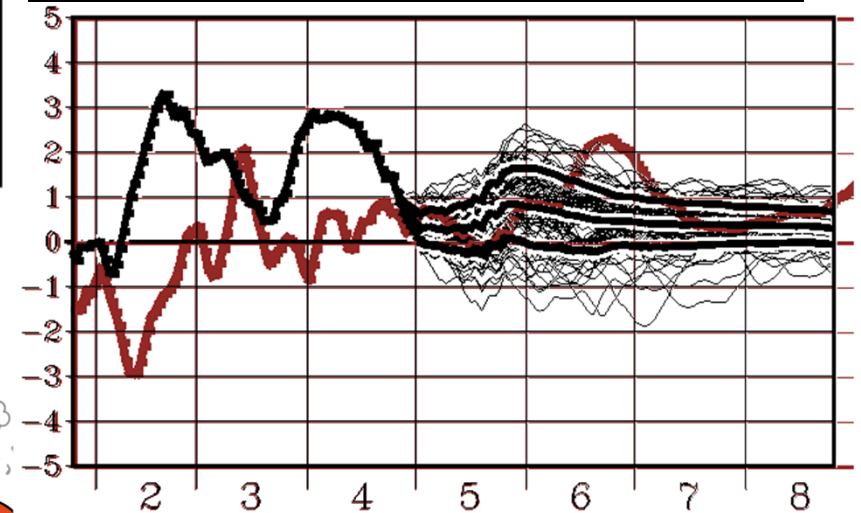


歩み続けて150年
防ぐ災害・守る未来

北半球中緯度の大気の温度は**高い**状態が続く。



西日本の上空約1,500m付近の
気温平年差



北半球中緯度の大気の温度の解析値と予測
対流圏（高さ約1,500~10,000m）の温度の平年差

昨年ほどの高温は
予想されていないが、
平年よりは高い。
高温に注意。

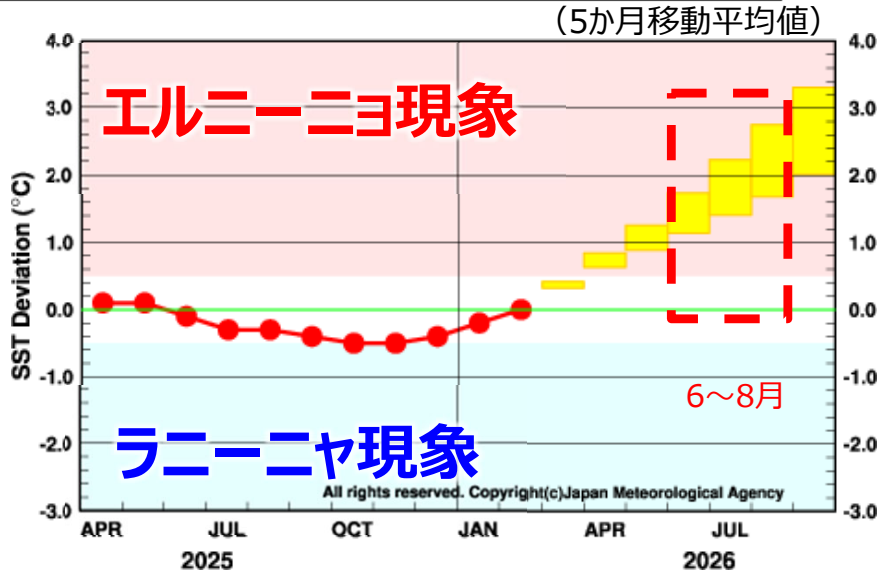


茶色は昨年の実況値

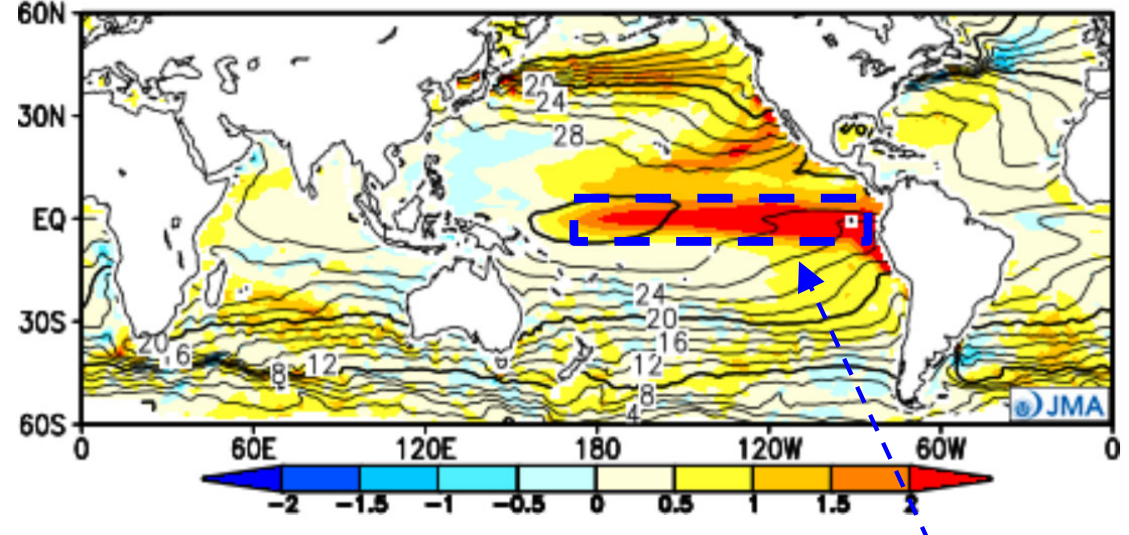
熱帯域の海面水温の予測

エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない**平常の状態**とみられるが、**エルニーニョ現象**時の特徴に近づきつつある。
今後、夏までに**エルニーニョ現象**が発生する可能性が高い（90%）。

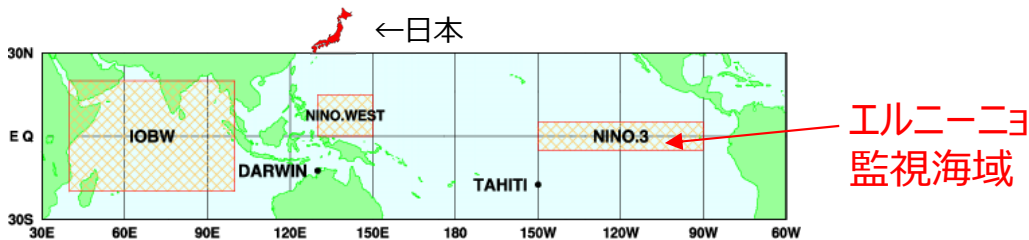
エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値の差
(5か月移動平均値)



海面水温の予測図 (6~8月)

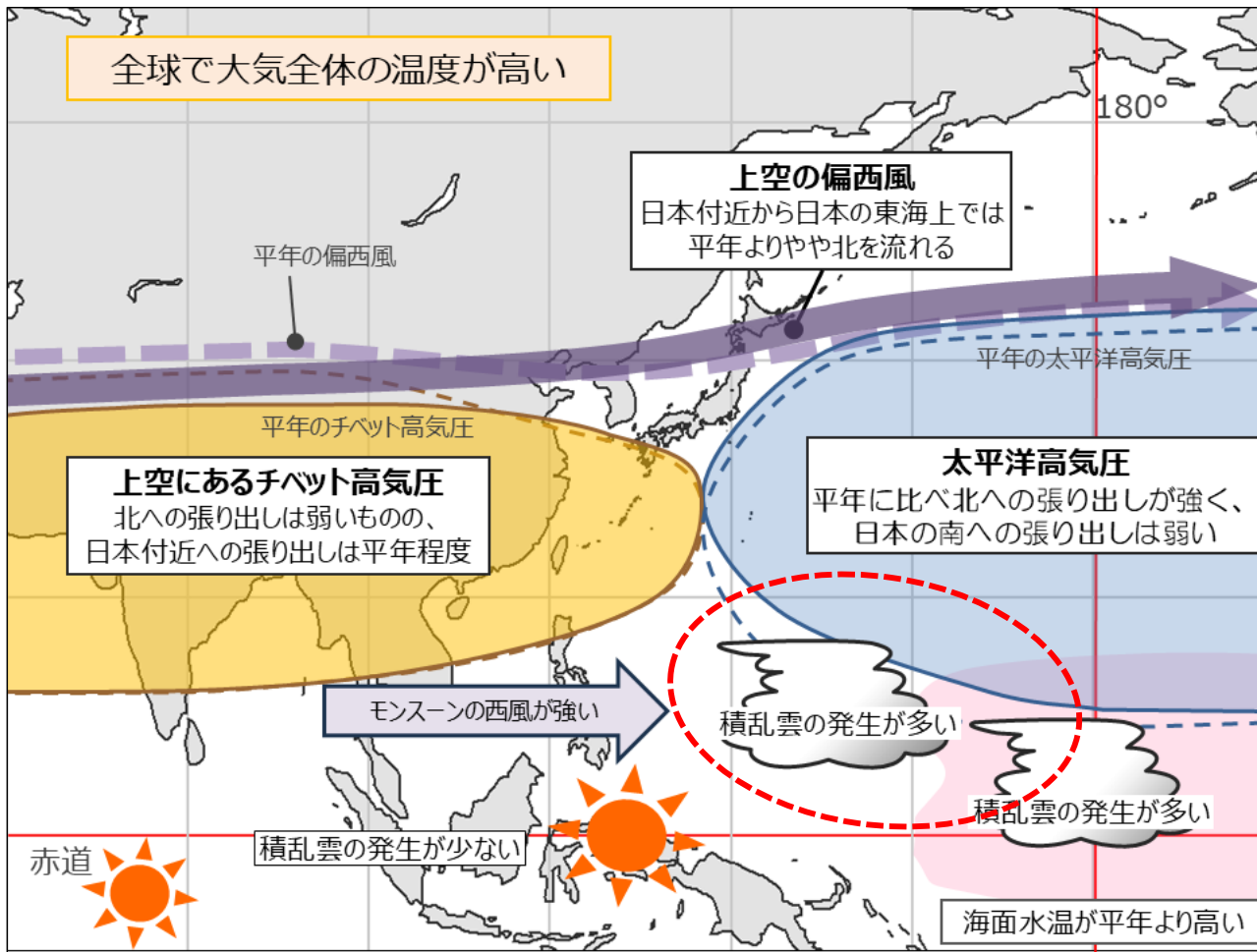


海面水温が高い海域が、
太平洋赤道域西部
→ 太平洋赤道域中・東部へ



エルニーニョ監視速報 URL :
https://www.data.jma.go.jp/cpd/elnino/kanshi_joho/kanshi_joho1.html

6～8月の予想される海洋と大気の特徴



気温のポイント

高温予想

- ✓ 大気全体の温度が**高い**
- ✓ **太平洋高気圧の北への張り出しが強く**（チベット高気圧の張り出しは平年程度）、**暖かい空気に覆われやすい**。
- ✓ 上空の偏西風が、大陸でやや南、日本付近ではやや北を流れ、**南からの暖かい空気がやや流れ込みやすい**。

降水量のポイント

- ✓ 降水量は**ほぼ平年並**を見込むが、**湿った空気が流れ込みやすい時期**もある。
- ✓ **梅雨前線の活動が活発**となる時期もある。

【熱帯域の海面水温と対流活動】

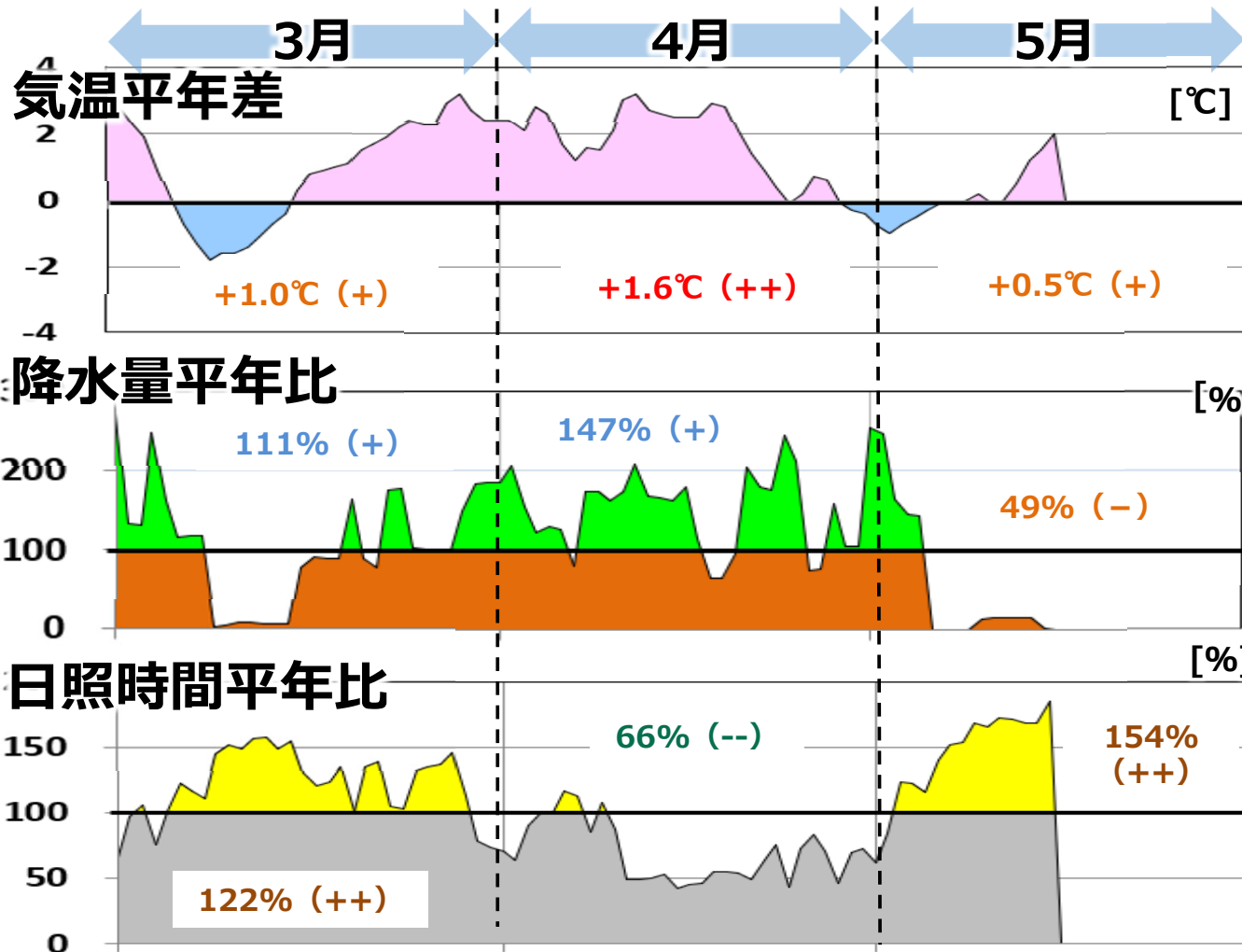
- **エルニーニョ現象**が発生する可能性が高く、海面水温は太平洋赤道域の東部～中部で高く、北太平洋熱帯域の中部でも高い。
- モンスーンの西風が強く、積乱雲の発生は、フィリピンの東から太平洋中部で多く、インドネシア付近～インド洋で少ない。

○ 通常のエルニーニョ現象時と違う部分
赤道付近の高海面水温域がやや西に偏るため、フィリピンの東～太平洋中部で積乱雲の発生が多くなり、太平洋高気圧が北に張り出す要因となる。

九州北部地方の天候経過 (3~5月)



歩み続けて150年
防ぐ災害・守る未来

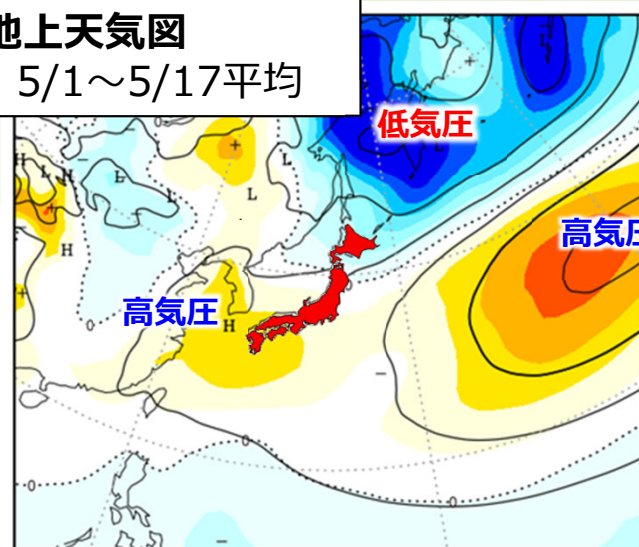


【5月の天候】

上旬の前半は低気圧の影響で雨となりましたが、その後は高気圧に覆われやすかったため、降水量は平年を下回り、日照時間は平年を大きく上回りました。

地上天気図

5/1~5/17平均



東シナ海から日本のはるか東にかけて高気圧が強く、東・西日本を中心に高気圧に覆われやすかった。

階級区分値

- (++) : かなり高い/かなり多い
- (+) : 高い/多い
- (0) : 平年並
- (-) : 低い/少ない
- (--) : かなり低い/かなり少ない

数値は月平年差 (比) ・ 階級区分値

5月の値は17日までの暫定値

グラフは5日移動平均値でプロット

暑さへの備え～高温に関する気象情報の流れ～



2週間気温予報

2週間先までの予報

高温に関する 早期天候情報

6日先～14日先までを対象
(原則月曜と木曜に発表)

気象解説情報 (高温)

7日先に、最高気温が35℃以上の
猛暑日となることが予想される場合
+ 環境省が熱中症特別警戒アラートを発表した場合

熱中症警戒アラート 熱中症特別警戒アラート

翌日・当日を予想

長期間の高温に関する 気象情報

高温がすでに発生し、今後数日間
以上続き、社会的に大きな影響を予想

農作物・家畜の高温
障害にも注意

2週間気温予報の例

	1週目の予報 (日別)							2週目の予報 (5日間平均)					
	当日	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目 (6～10 日目)	9日目 (7～11 日目)	10日目 (8～12 日目)	11日目 (9～13 日目)	12日目 (10～ 14日)
最高気温		26	26	27	29	32	32	33	34	35	35	35	35
最低気温		23	23	23	24	25	25	25	26	26	26	26	26



気象解説情報 (高温) の例

九州北部地方 (山口県を含む) 気象解説情報 (高温) 第◇号
令和〇年8月5日15時00分 福岡管区気象台発表

(見出し)

九州北部地方 (山口県を含む) では、8月8日から12日頃にかけて、最高気温が35度以上となるところがあるでしょう。

(本文)

九州北部地方 (山口県を含む) では、8月8日から12日頃にかけて高気圧に覆われて晴れるため、**最高気温が35度以上の猛暑日**となる所がある見込みです。熱中症などの健康管理、農作物や家畜の管理などに注意してください。

急な気温上昇!
暑さに慣れないかも?
熱中症に注意しよう!



大雨への備え～大雨に関する気象情報の流れ～

- **大雨**の発生の**5日前**から、**早期注意情報**で、**警報級の大雨の可能性**を発表しています。
 - 早期注意情報や時系列情報等は、心構えを高め、事前の体制確保の検討に
- **キキクル**や**気象防災速報**は、**避難の判断**や**後押し**に活用してください。



早期注意情報（警報級の可能性）

時系列情報（明日までの警報等の見通し）

大雨・土砂災害・河川氾濫の警戒レベル
注意報・警報・危険警報・特別警報

早期注意情報（大雨）の例

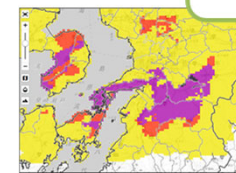
	当日	1日後		2日後		3日後	4日後	5日後
		00-06	06-12	12-18	18-24			
早期注意情報	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24	00-12	12-24	
大雨	-	-	-	-	-	-	-	
土砂災害	-	-	-	-	-	-	-	
						[中]	[高]	[中]

キキクル

気象防災速報



3～5日後は大雨の可能性。
今のうちに確認・準備しておこう。



キキクルで
避難判断



6～8月の見通しのまとめ



歩み続けて150年
防ぐ災害・守る未来

予報のポイント

- 夏の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、**高い**でしょう。

留意していただきたいこと

- 期間を通して**高温**の予報。
- **暑さ対策**（熱中症対策等、農作物・家畜の管理等）をお願いします。

エルニーニョ現象になる
見込みですが気温は高い



- **降水量**は**ほぼ平年並**の予報ですが、**湿った空気が流れ込みやすい時期があり、梅雨前線の活動が活発となる時期がある**見込み。
- **近年は梅雨時期の大雨の発生頻度は増加**しています。最新の気象情報等を活用いただき、**大雨への備え**をお願いします。

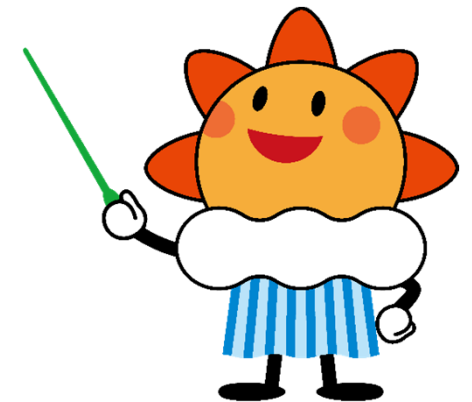
次回の3か月予報の発表は、**6月23日（火）14時**です。



参考資料



ぼるけん



はれるん

最近の夏（6～8月）の天候

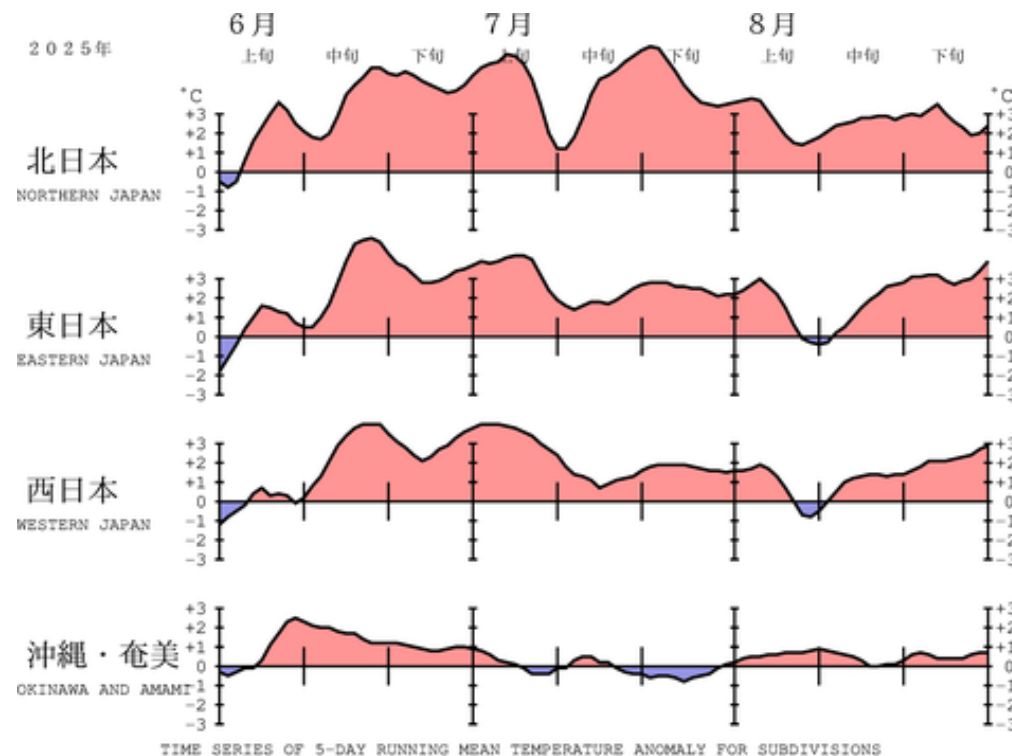


歩み続けて150年
防ぐ災害・守る未来

過去10年間の九州北部地方の地域平均の平均気温（平年差℃）と階級

年	6～8月	6月	7月	8月
2025	1.7	1.5	2.3	1.2
2024	1.4	0.5	1.7	1.9
2023	1.0	0.7	1.0	1.1
2022	1.1	1.1	1.1	1.0
2021	0.3	0.8	0.8	-0.7
2020	0.3	1.3	-1.6	1.3
2019	-0.4	0.0	-0.9	-0.3
2018	1.1	0.4	1.4	1.5
2017	0.7	-0.3	1.5	0.8
2016	0.6	0.3	0.7	0.9

2025年 地域平均気温平年差



地域平均気温平年差の5日移動平均時系列

更新日：2025年9月10日

濃い赤：かなり高い、薄い赤：高い 白：平年並

濃い青：かなり低い、薄い青：低い

年の色は、赤：夏にエルニーニョ現象が発生している 青：夏にラニーニャ現象が発生している

- ・最近10年の7～9月の平均気温は、エルニーニョ現象、ラニーニャ現象の発生の有無に関わらず、全国的に平年並か高い年が多い。特に、最近3年間は記録的な高温となった。
- ・昨年（2025年）は、夏を通じて偏西風が北に偏って流れやすく、日本の平均気温は統計開始以降、1位の高温となった。また、梅雨前線の活動が弱く、太平洋高気圧が日本付近に強く張り出したため、北・東・西日本を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多かった。また、多くの地域で梅雨入りと梅雨明けがともにかなり早かった。

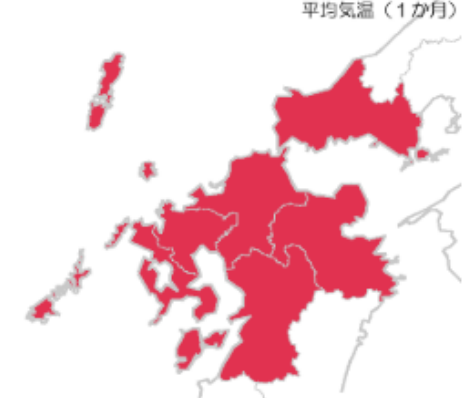


1か月予報（5/14発表）

予報のポイント

毎週木曜日14時30分発表

- ✓ 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は**高い**でしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
- ✓ 前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は**平年並か多く**、日照時間は**平年並か少ない**でしょう。

向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間

	平均気温（向こう1か月）	降水量（向こう1か月）	日照時間（向こう1か月）
九州北部地方（山口県含む）	低10 並10 高80% 高い見込み	少20 並40 多40% 平年並か多い見込み	少40 並40 多20% 平年並か少ない見込み
数値は予想される出現確率（%）です	<p>平均気温（1か月）</p>  <p>低い確率 50% 以上 40% 平年並も40% 40% 高い確率 50% 以上</p>	<p>降水量（1か月）</p>  <p>少ない確率 50% 以上 40% 平年並も40% 40% 多い確率 50% 以上</p>	<p>日照時間（1か月）</p>  <p>少ない確率 50% 以上 40% 平年並も40% 40% 多い確率 50% 以上</p>

2週間気温予報・早期天候情報



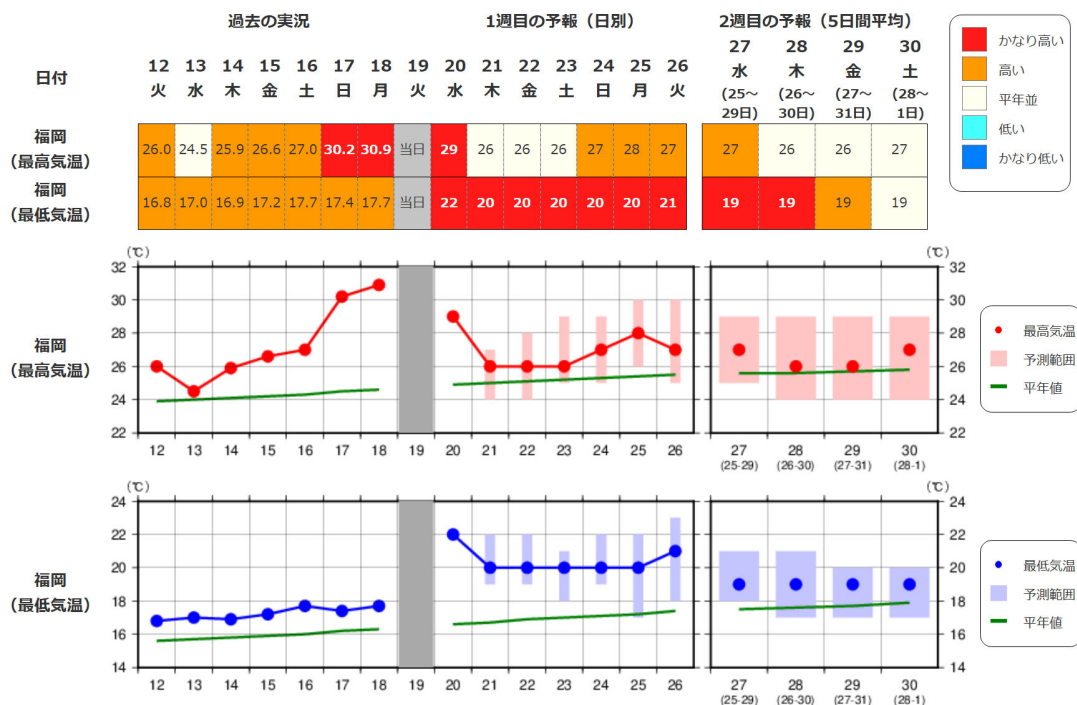
歩み続けて150年
防ぐ災害・守る未来

2週間気温予報（福岡）

毎日14時30分発表

5時/11時/17時更新

（5/19 11:00更新）



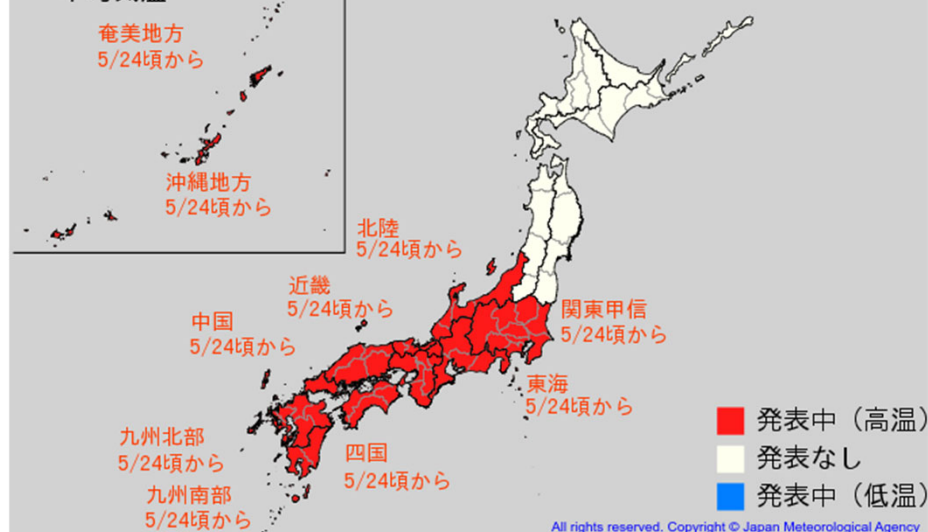
早期天候情報

5/18発表

早期天候情報 令和8年5月18日14時30分 発表

情報の対象期間：5月24日～6月1日

平均気温



高温に関する早期天候情報（九州北部地方（山口県を含む））
令和8年5月18日14時30分 福岡管区气象台 発表

九州北部地方（山口県を含む） 5月24日頃から かなりの高温
かなりの高温の基準：5日間平均気温平年差 +1.7℃以上

九州北部地方（山口県を含む）の向こう2週間の気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため、かなり高い日が多い見込みです。

農作物や家畜の管理等に注意してください。また、熱中症対策など健康管理に注意してください。

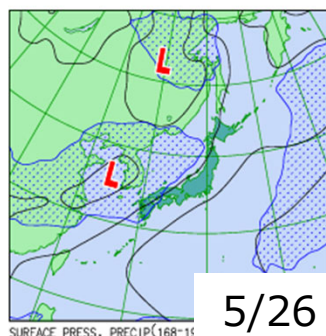
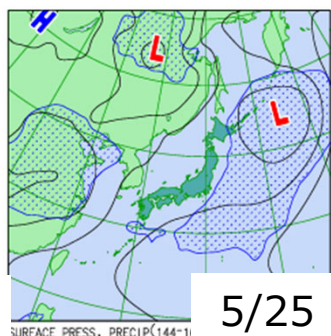
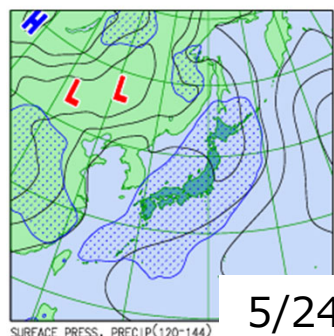
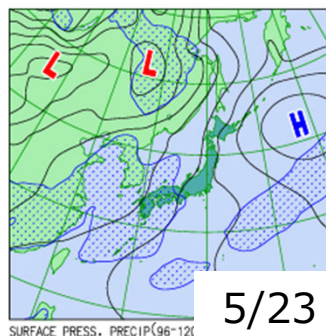
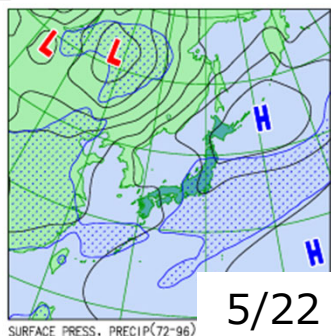
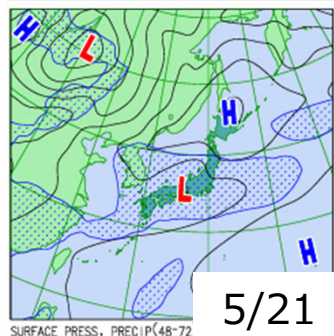
なお、1週間以内に高温が予測される場合には高温に関する気象情報を、翌日または当日に熱中症の危険性が極めて高い気象状況になることが予測される場合には熱中症警戒アラートを発表しますので、こちらにも留意してください。

2週間気温予報（九州北部地方）



週間天気予報 (5/19 11時発表)

予想天気図











L: 低気圧 H: 高気圧

陰影部: 24時間で5mm以上の予想降水域

週間天気予報 (福岡県)

福岡県の天気予報 (7日先まで)

2026年05月19日11時 福岡管区气象台 発表

日付	今日 19日(火)	明日 20日(水)	明後日 21日(木)	22日(金)	23日(土)	24日(日)	25日(月)	26日(火)	
福岡県	晴後曇 	曇後一時雨 	雨後曇 	曇 	曇一時雨 	曇一時雨 	曇 	曇一時雨 	
降水確率(%)	-/-/0/10	30/30/40/60	80	40	50	50	40	50	
信頼度	-	-	-	B	C	C	B	C	
福岡 気温 (°C)	最高	29	29	26 (24~27)	26 (24~28)	26 (25~29)	27 (25~29)	28 (26~30)	27 (25~30)
	最低	-	22	20 (19~22)	20 (19~22)	20 (18~21)	20 (19~22)	20 (17~22)	21 (18~23)
				向こう一週間 (明日から7日先まで) の平年値					
				降水量の7日間合計		最低気温		最高気温	
福岡				平年並 6 - 30mm		17.0°C		25.2°C	

向こう1週間の雨の見通し

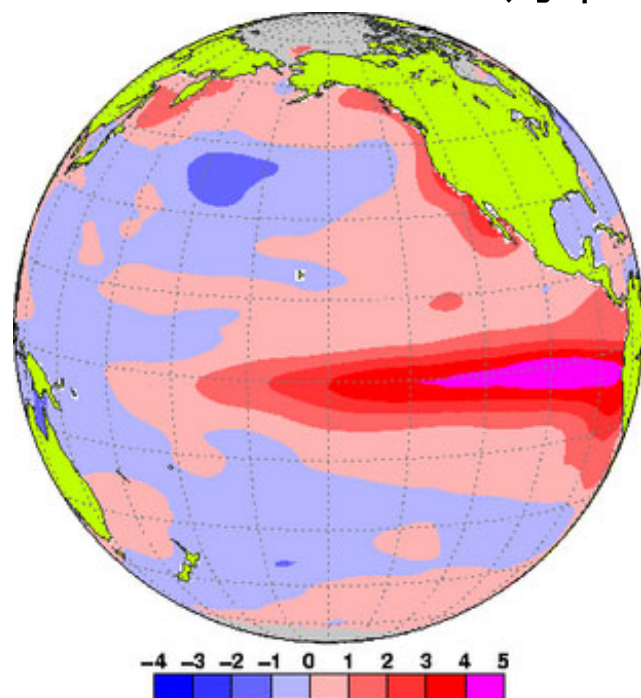
低気圧や湿った空気の影響で雲が広がりやすく、曇りや雨の日が多いでしょう。

福岡の降水量は **多い** でしょう (平年並の範囲: 6 ~ 30 mm)。

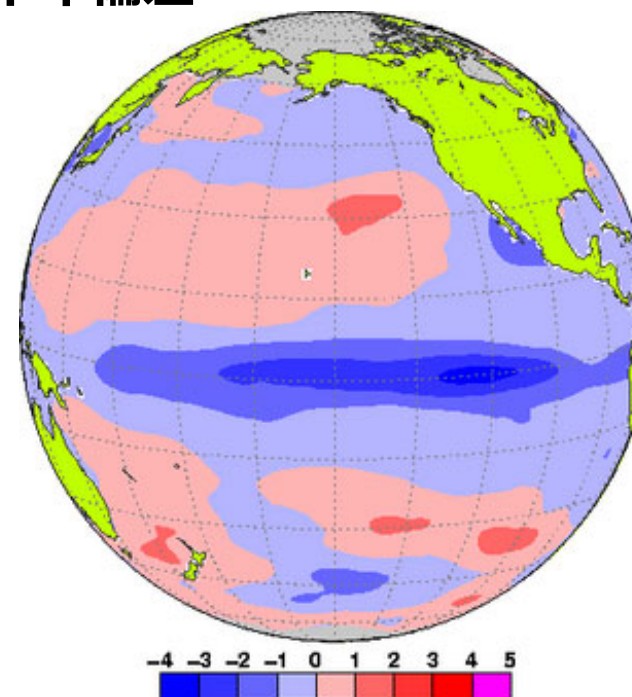
エルニーニョ現象・ラニーニャ現象①

エルニーニョ現象とは、太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて海面水温が平年より高くなり、その状態が1年程度続く現象です。逆に、同じ海域で海面水温が平年より低い状態が続く現象はラニーニャ現象と呼ばれ、それぞれ数年おきに発生します。エルニーニョ現象やラニーニャ現象は、日本を含め世界中の異常な天候の要因となり得ると考えられています。

月平均海面水温平年偏差



エルニーニョ現象発生時
(1997年11月)

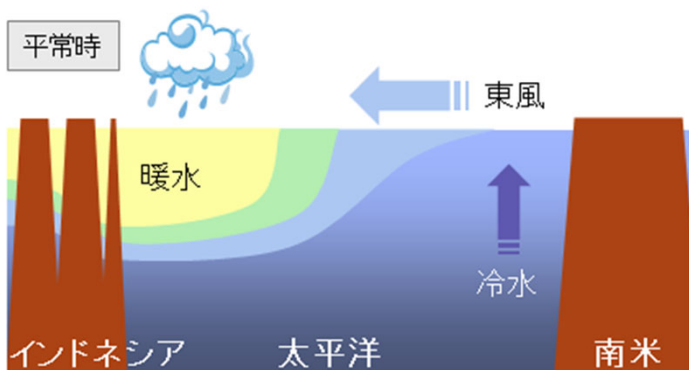


ラニーニャ現象発生時
(1988年12月)

気象庁ホームページ (エルニーニョ/ラニーニャ現象とは)

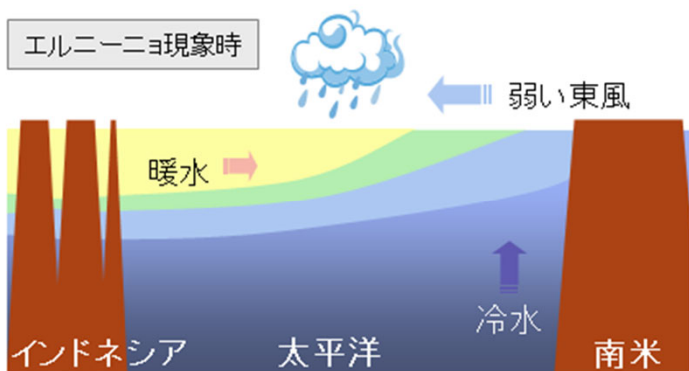
https://www.data.jma.go.jp/cpd/data/el_nino/learning/faq/whatiselnino.html

エルニーニョ現象・ラニーニャ現象②



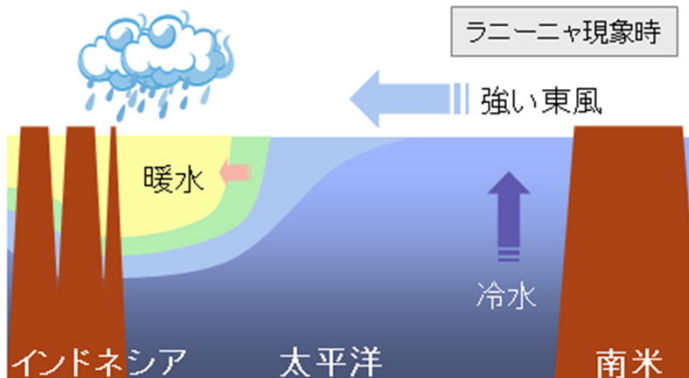
平常時の状態

太平洋の熱帯域では、貿易風と呼ばれる東風が常に吹いているため、海面付近の暖かい海水が太平洋の西側に吹き寄せられています。西部のインドネシア近海では海面下数百メートルまでの表層に暖かい海水が蓄積し、東部の南米沖では、この東風と地球の自転の効果によって深いところから冷たい海水が海面近くに湧き上がっています。このため、海面水温は太平洋赤道域の西部で高く、東部で低くなっています。海面水温の高い太平洋西部では、海面からの蒸発が盛んで、大気中に大量の水蒸気が供給され、上空で積乱雲が盛んに発生します。



エルニーニョ現象時の状態

エルニーニョ現象が発生している時には、東風が平常時よりも弱くなり、西部に溜まっていた暖かい海水が東方へ広がるとともに、東部では冷たい水の湧き上がりが弱まっています。このため、太平洋赤道域の中部から東部では、海面水温が平常時よりも高くなっています。エルニーニョ現象発生時は、積乱雲が盛んに発生する海域が平常時より東へ移ります。



ラニーニャ現象時の状態

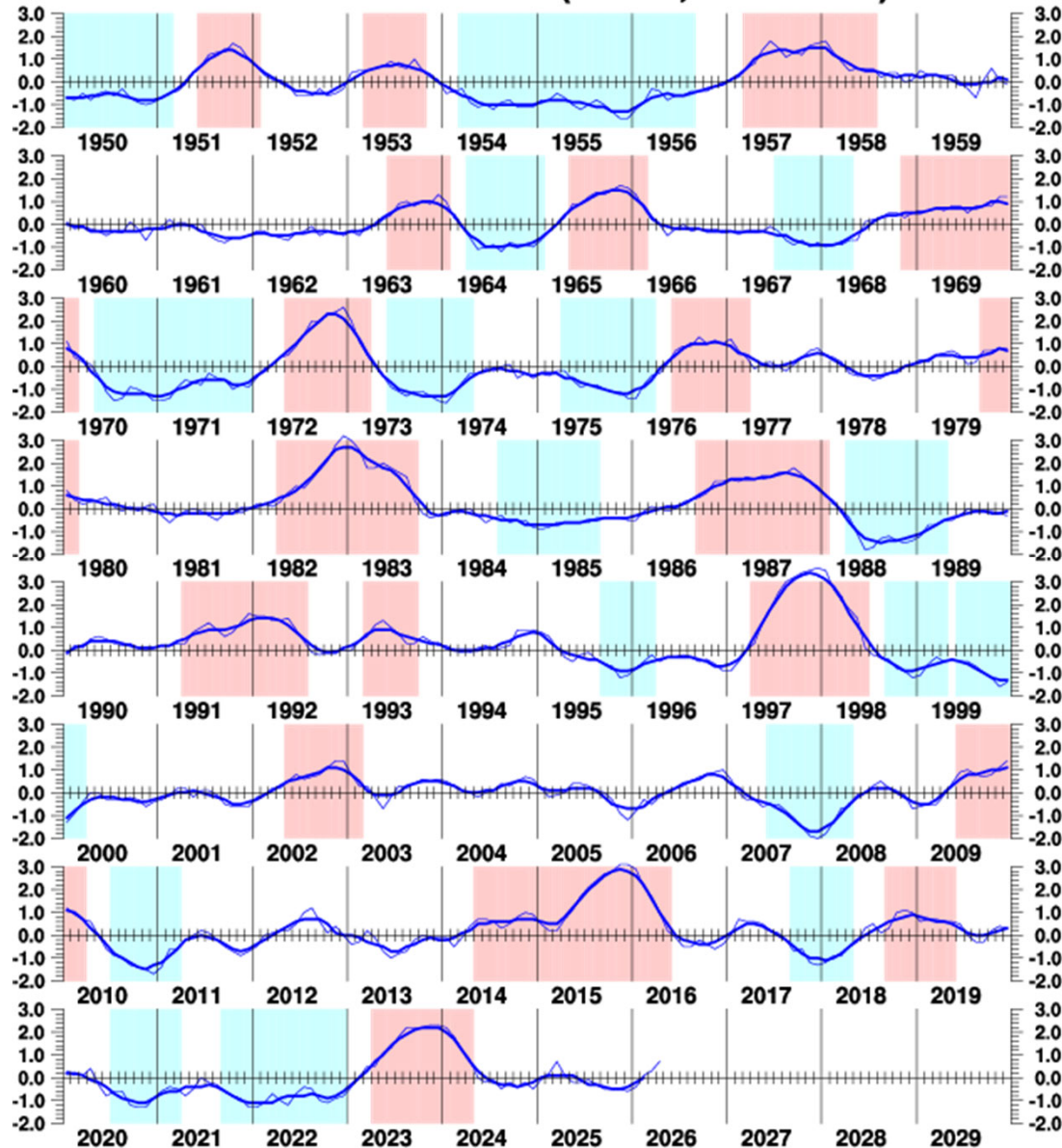
ラニーニャ現象が発生している時には、東風が平常時よりも強くなり、西部に暖かい海水がより厚く蓄積する一方、東部では冷たい水の湧き上がりの方が平常時より強くなります。このため、太平洋赤道域の中部から東部では、海面水温が平常時よりも低くなっています。ラニーニャ現象発生時は、インドネシア近海の海上では積乱雲がいつも盛んに発生します。

エルニーニョ現象・ラニーニャ現象の発生時期



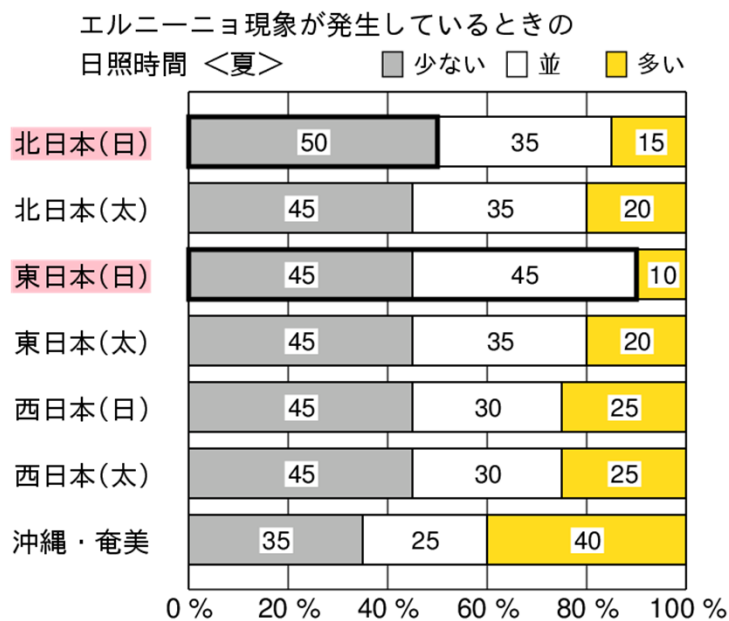
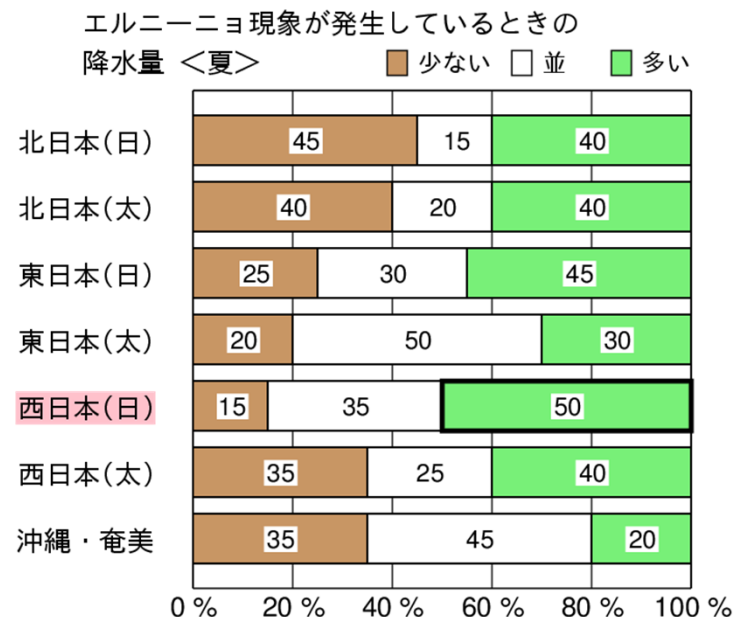
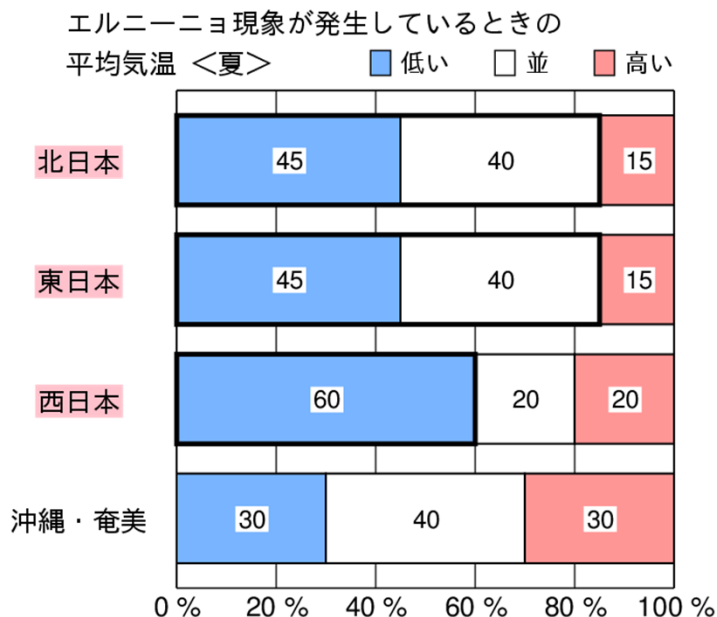
歩み続けて150年
防ぐ災害・守る未来

SST Deviation at NINO.3 (5S-5N,150W-90W)



エルニーニョ現象			ラニーニャ現象		
発生期間	季節数	差の最大値 (月平均)	発生期間	季節数	差の最小値 (月平均)
			1949年秋～1950/51年冬	6	-1.0
1951年夏～1951/52年冬	3	+1.7			
1953年春～1953年秋	3	+1.0	1954年春～1956年夏	10	-1.6
1957年春～1958年夏	6	+1.8			
1963年夏～1963/64年冬	3	+1.3	1964年春～1964/65年冬	4	-1.2
1965年春～1965/66年冬	4	+1.7	1967年夏～1968年春	4	-1.0
1968年秋～1969/70年冬	6	+1.2	1970年春～1971/72年冬	8	-1.5
1972年春～1973年春	5	+2.6	1973年夏～1974年春	4	-1.6
			1975年春～1976年春	5	-1.4
1976年夏～1977年春	4	+1.3			
1979年秋～1979/80年冬	2	+0.8			
1982年春～1983年秋	7	+3.2	1984年夏～1985年夏	5	-0.9
1986年秋～1987/88年冬	6	+1.8	1988年春～1989年春	5	-1.8
1991年春～1992年夏	6	+1.6			
1993年春～1993年秋	3	+1.3	1995年秋～1996年春	3	-1.2
1997年春～1998年夏	6	+3.6	1998年秋～1999年春	3	-1.2
			1999年夏～2000年春	4	-1.6
2002年春～2002/03年冬	4	+1.4	2007年夏～2008年春	4	-2.0
2009年夏～2010年春	4	+1.4	2010年夏～2011年春	4	-1.7
2014年春～2016年春	9	+3.1	2017年秋～2018年春	3	-1.3
2018年秋～2019年春	3	+1.1	2020年夏～2021年春	4	-1.3
			2021年秋～2022/23年冬	6	-1.3
2023年春～2024年春	5	+2.3			

夏のエルニーニョ現象時の日本の天候の特徴

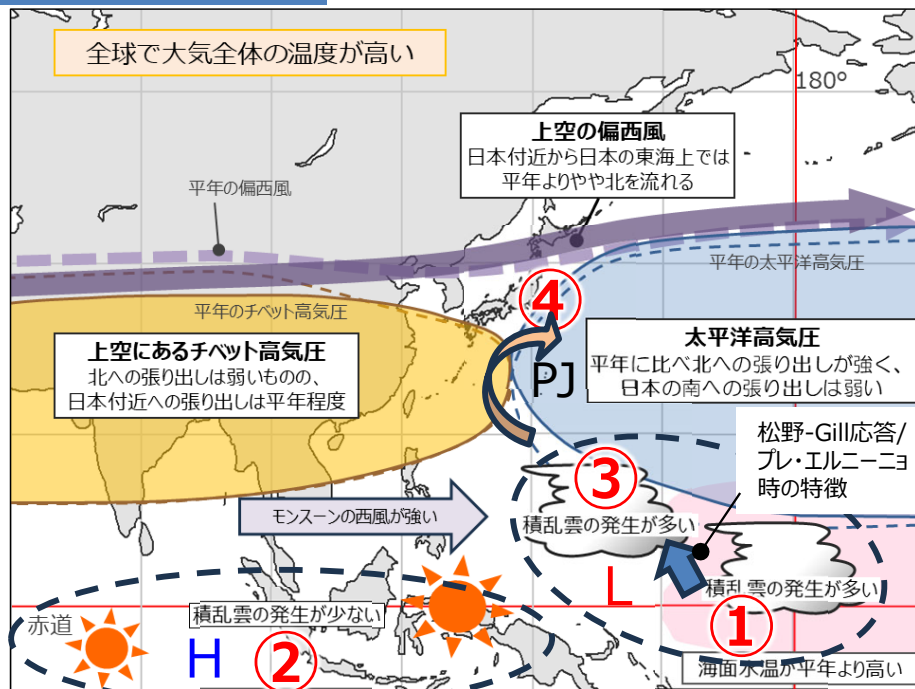


3か月（6～8月）の統計的に有意な傾向

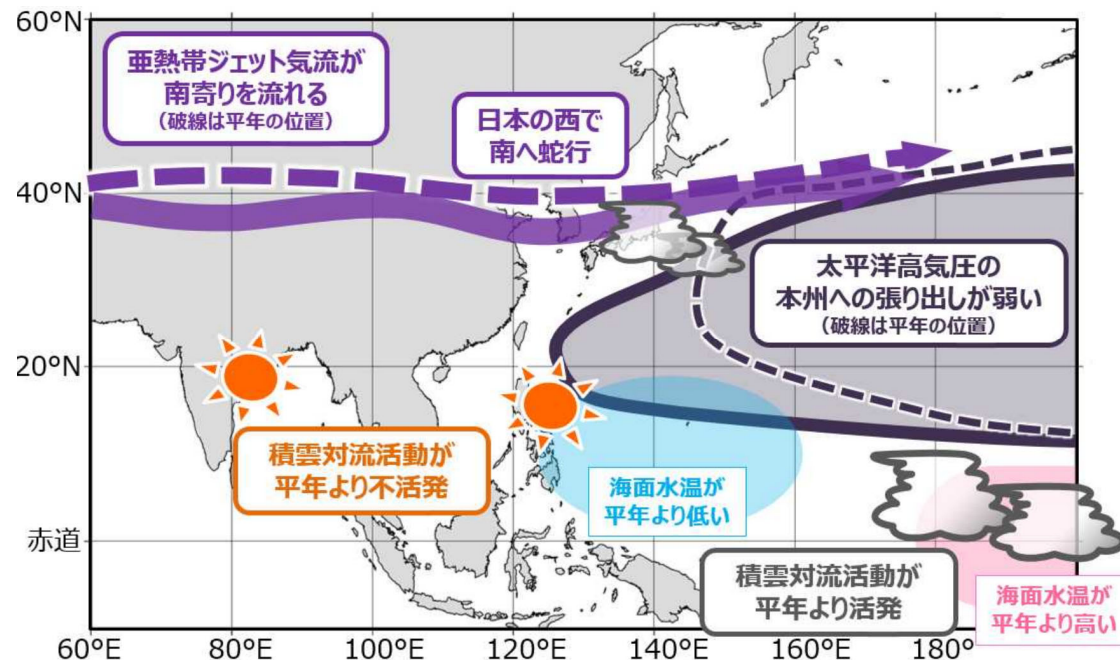
- ・気温：北・東日本で平年並か低い。
西日本で低い。
- ・降水量：西日本日本海側で多い。
- ・日照時間：北日本日本海側で少ない。
東日本日本海側で平年並か少ない

今夏の予報 通常のエルニーニョ現象との違い

今夏の予測



通常のエルニーニョ現象時の夏の特徴



気象庁季節予報技術情報 第2巻（令和6年度）第1章より抜粋
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/kisetsu_gijyutsu/02/chapter1.pdf

通常のエルニーニョ現象時との違い

- ① 海面水温が高い海域や、積乱雲の発生が多いエリアが、通常のエルニーニョ現象時よりもやや西にも広がる。
- ② 積乱雲の少ないエリアが、インド洋～インドネシアの赤道付近（エルニーニョ現象時に比べ狭い）。
- ③ ①により、フィリピンの東で積乱雲の発生が多い（松野-Gill応答（あるいはプレ・エルニーニョ現象時の夏の特徴）によって、その北西で低気圧性循環が形成）。また、①と②により、アジアモンスーンの西風が強まり、フィリピンの東で収束。フィリピンの東でより積乱雲が発生しやすくなる。
- ④ ③のフィリピンの東で積乱雲の発生が多くなることによって上昇した空気が、日本付近で沈降し、太平洋高気圧が北へ強く張り出す（正のPJパターンの応答）。

大雨の発生頻度の変化



気象庁HP
大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化



大雨の年間発生頻度は増加しており、

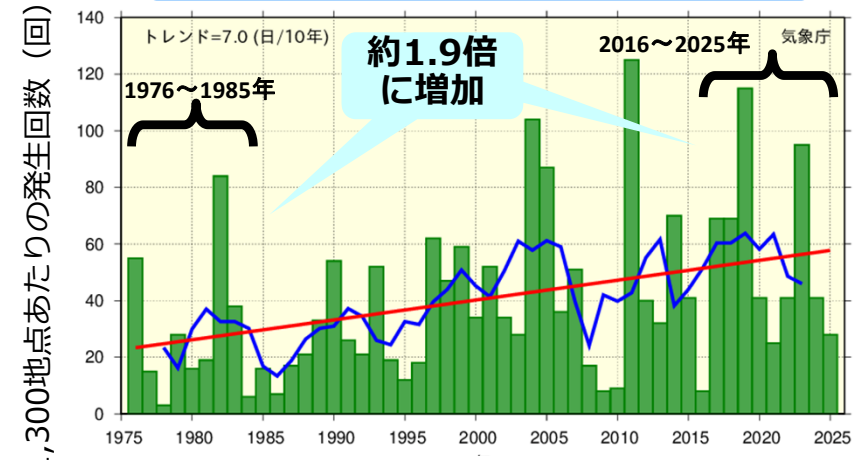
- より強度の強い雨ほど頻度の増加率が大きい
- 1980年頃と比較して、おおむね2倍程度(※)に頻度が増加している
(※ 1時間降水量80mm以上、3時間降水量150mm以上、日降水量300mm以上など強度の強い雨)

これらの変化には、地球温暖化が影響している可能性がある
⇒大雨に対する備えの必要性を認識していただきたい

変化の倍率 (2016-2025年平均 / 1976-1985年平均)	
1時間降水量50mm以上	約1.5倍 (約226回→約340回)
1時間降水量80mm以上	約1.8倍 (約14回→約25回)
1時間降水量100mm以上	約2.0倍 (約2.2回→約4.4回)
3時間降水量100mm以上	約1.6倍 (約155回→約248回)
3時間降水量150mm以上	約1.8倍 (約19回→約33回)
3時間降水量200mm以上	約2.1倍 (約2.8回→約5.9回)
日降水量200mm以上	約1.5倍 (約160日→約240日)
日降水量300mm以上	約1.9倍 (約28日→約53日)
日降水量400mm以上	約2.1倍 (約6.4日→約13日)

- 変化の倍率は、最初の10年間（1976～1985年）と最近10年間（2016～2025年）の比。
- 回数及び日数はアメダス1,300地点あたりの換算値。

日降水量300mm以上の大雨の年間日数 (1976年～)



- 全国のアメダスによる観測値を1,300地点あたりに換算した値
- 棒グラフ（緑色）は各年の値、青線は5年移動平均値、赤い直線は長期変化傾向を示す。

あるいは、以下のような幅を持った表現もできる。ただし、数値は統計手法や期間等で変わりうることに留意。
1980年頃と比較して、約1.8倍～約2.1倍(※)に頻度が増加している
(※ 1時間降水量80mm以上、3時間降水量150mm以上、日降水量300mm以上など強度の強い雨。統計期間は1976～2025年)

季節予報とは？



気象庁HP
季節予報って何？



季節予報は、日々の天気ではなく、ある地域の大まかな天候（平年の気候と比べて、どのくらい偏った天候か）を予報します。

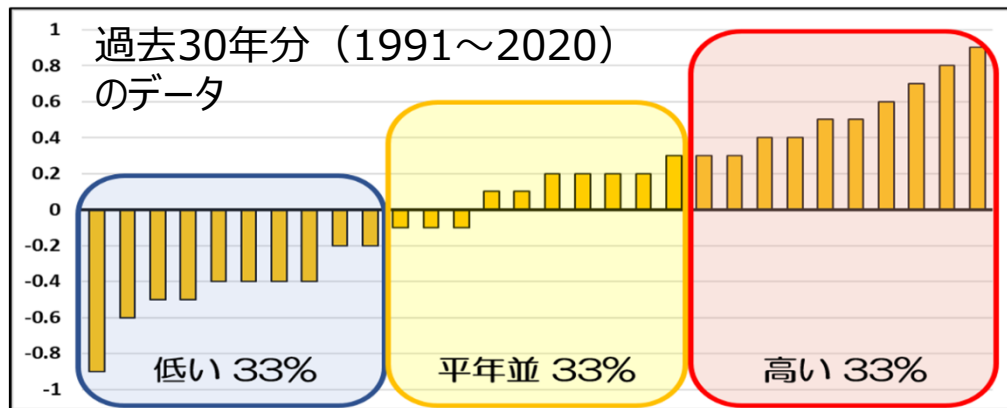
地域：日本全国を11地方に分類（右図）

予報する要素

- 例) 1 か月間、3 か月間の平均気温
- 1 か月間、3 か月間の降水量
- 1 か月間、3 か月間の日照時間 など



予報は3つの階級
低い（少ない）・平年並・高い（多い）の
どの階級に入るかを予報します

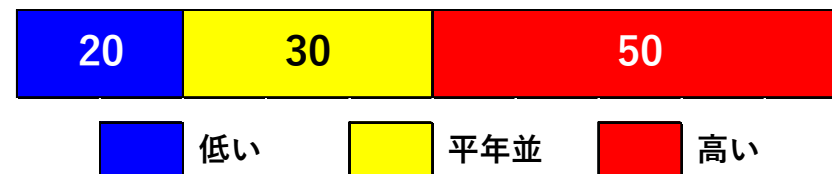


現在が平年値期間の30年と同じ気候だとした場合、「高い」「平年並」「低い」という階級になる可能性は、それぞれ33%。

予報区



予報例 向こう3か月の気温



平年並か低くなる確率も50%

高くなる確率は
50%